

食料安全保障と栄養に関する G7 行動ビジョン（和文骨子）

●今日、飢餓及び栄養不良は、地球上の 20 億人以上の人々の生命に直接的な影響を与える深刻な問題を引き起こしている。同時に、農業部門の成長の促進、並びに食料安全保障及び栄養の取組強化は、持続可能な開発のための 2030 アジェンダ全体の達成のために必要である。

●G7 は、2015 年に発表した食料安全保障及び栄養に関する広範な開発アプローチに基づき、「食料安全保障と栄養に関する G7 行動ビジョン」(V4A) を提示し、2030 年までに開発途上国において 5 億人を飢餓及び栄養不良から救い出すという野心的な目標を達成するべく、協調的かつ焦点を絞った行動をとることで G7 の政治的責務を果たす。G7 は、次の 3 つの重点分野について、協働して進める行動を特定した。

1. 農業及びフードシステムにおける女性のエンパワーメント

女性が同等の権利及び資源（特に土地）へのアクセスを持つことを推進すること、農地及び農地以外の双方においてより高額かつ適正な利益を得られる経済的機会を増やすこと、また、女性が経済活動に参画できるような環境を創り出すことに重点を置き、この目的のためにとる具体的な行動を決定。

2. 人間中心のアプローチを通じた栄養の改善

G7 は、特に妊娠から 2 歳の誕生日までの最初の 1,000 日間とその後の生涯を通じ、農村から都市にわたる様々な場所で、あらゆる形態の栄養不良に苦しむ脆弱な個々人の多様なニーズに着目する人間中心のアプローチをとる。個人及びコミュニティのエンパワーメントにより、人間一人ひとりが栄養改善（食事の質の改善を含む）の持続的な成果を得られるようにすることに重点を置き、この目的のためにとる具体的な行動を決定。

3. 農業及びフードシステムにおける持続可能性及び強靱性の確保

気候変動対応型農業を含み得る持続可能な農業慣行に関する研究開発、知見の交換、実施及び普及を推進すること、国際的なガイドラインや原則である VGGT 及び CFS-RAI を全てのステークホルダーが適用・実施するよう促進すること、農村から都市の様々な場所における農業とフードバリューチェーンの連関を強化すること、天候によるショック及び長期化した危機状況に対する農業セクター従事者の生計手段の強靱性並びに農業及びフードシステムの強靱性を強化することに重点を置き、この目的のためにとる具体的な行動を決定。

●実施及び説明責任の強化のため、以下の措置を講じる。

より良いデータに着目し、ステークホルダーの協調を強化し、並びに政策及びプログラムに必要な情報を提供するためにこれらのデータを使用することなどによって、飢餓及び栄養不良の測定に係る G7 自らの取組を改善し、開発途上国の取組を支援することにコミットする。また、食料安全保障作業部会の会合を 2030 年まで毎年開催し情報共有や協調を強化し、G7 進捗報告書やその他のフォーマットにおいて、食料安全保障及び栄養に関するコミットメントの進捗を報告する。さらに、幅広いステークホルダー及び他のフォーラムとの間で相乗効果及び関与を強化し、地域の文脈・課題に即した取組となるよう TICAD VI も活用して協調を進め、より効果的かつ持続可能な形での多様な資金を動員すべく協働する。